大好きな憧れの美人叔母さんは
僕の父が調教済みのチンポ奴隷でした

ピンポーン

あら
麗香ちゃんかしら
お出迎えしてあげて

うん

今日は楽しみにしてた
叔母さんとの食事の日

父さんが亡くなってから
みんなで食事しようと
叔母さんが
提案してくれたんだ

いらっしゃい
麗香叔母さん

ガチャ

母さんの妹であり
僕が通う学校の教師

そして…
僕の憧れの女性だ

ふふ　今日の
授業ぶりね

ニコッ

丁寧にお迎え
いつもありがとう

なぜ…

か　母さんに
言われた
…から

ドキッ

やっぱり姉さんの作る料理は最高ね そろそろ再婚したら？ 勿体無いわよ

そういう麗香ちゃんだってずっと一人じゃない

私はいいのよ

そう　こんな綺麗なのに ずっと独身の叔母さん 僕も不思議に思っていた

ただ…こうして 美人で……巨乳な叔母さんと 一緒に食事が出来る時間がなくなるのは嫌かも…

グルッ♡

ドキ

ドキ

ぴくっ

ねぇ　私って そんなに寂しそうに見える？

えっ

叔母さんには悪いけど 僕にはそう見える 笑顔だけどいつも儚げで 何かを求めている

失礼しちゃうわよね

じっ…

それになんだか… 今日は叔母さん ちょっと様子が違う

すごく 見つめられてる 気がする…

そして
家がしんと静まり返った
深夜の事だった…

ガタッ

お　叔母さん!?

シーっ…

ドキ

ドキ

ツンッ

僕のベッドに
なぜ叔母さんが…?
目の前で起こっている
出来事に僕は混乱していた
そして…

はぁ…
おいひ…
それにまだ…
ビンビン

だら…

僕は…
あっという間に
叔母さんのフェラで
絶頂させられた

もう 君の前で
隠し通せないの
本当の私…

ぬぢっ

じゅく

とろ…

どろっ

ちょ…
麗香叔母さん!?
それは流石に…

あっ

ぐぢっ

あっという間に
飲み込まれた
叔母さんの中は

ぐぷ

みちっ

あり得ないほど
気持ちよかった

おっ…
おっ…

そして叔母さんは
見たこともない
下品で恍惚とした
顔をしていた

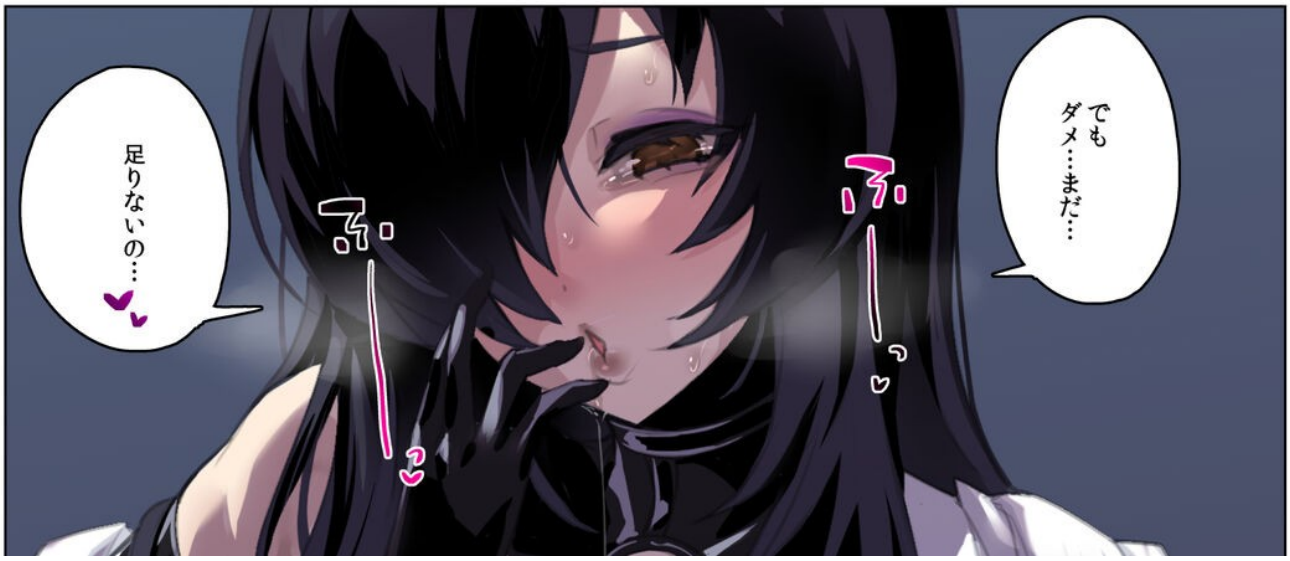
ぐぢっ

ぐぢっ

ぐぢっ

待って…叔母さん！こんなのすぐに…出っ…！
ぴくっ
ふっ
ふっ
ぬっ
ぬっ
ニュプ
ニュプ
ぶるるるる
ズゾゾゾゾ
ぶるっ
ドクッ
ドクッ

久しぶりの…この感覚…
おっ…
キュン
キュン
ぷしゅ
ビロ…


でもダメ…まだ…
ふーっ
ふーっ
足りないの…

状況を飲み込む間も無く
僕の初体験は
やらしくボンデージを
身に纏った纏った叔母さんに
奪われた

そして僕の精液を
指に絡め
口に運び

恍惚の表情で
味わっていた

ああ　この味…
匂い…ずっと
待ち焦がれてた

あなたのお父さんは
私を女の快楽漬けに
して…

そして私を
置いて行って
しまった…

今日から
お父さんの代わりに
私を飼って欲しいの

あなたの…
チンポ奴隷にして
ください…

だから…

まだっ…

ゾク ゾク

ガク ガク

キュポ…っ

キュッ キュッ

僕は叔母さんを
押し倒しピストンを
再開した

悔しかった…
美人でクールで
大好きだった叔母さんが
こんな表情で
喘ぎまくっている

そして父さんだけが
この叔母さんを
知っていた…いや
この叔母さんを作ったのは
父さんだ

叔母さん…っ！
叔母さん!!

あっ あっ

そうっ
オナホに突っ込む
みたいにっ…

もっと激しく…

ぶるんっ

どちっ どちっ

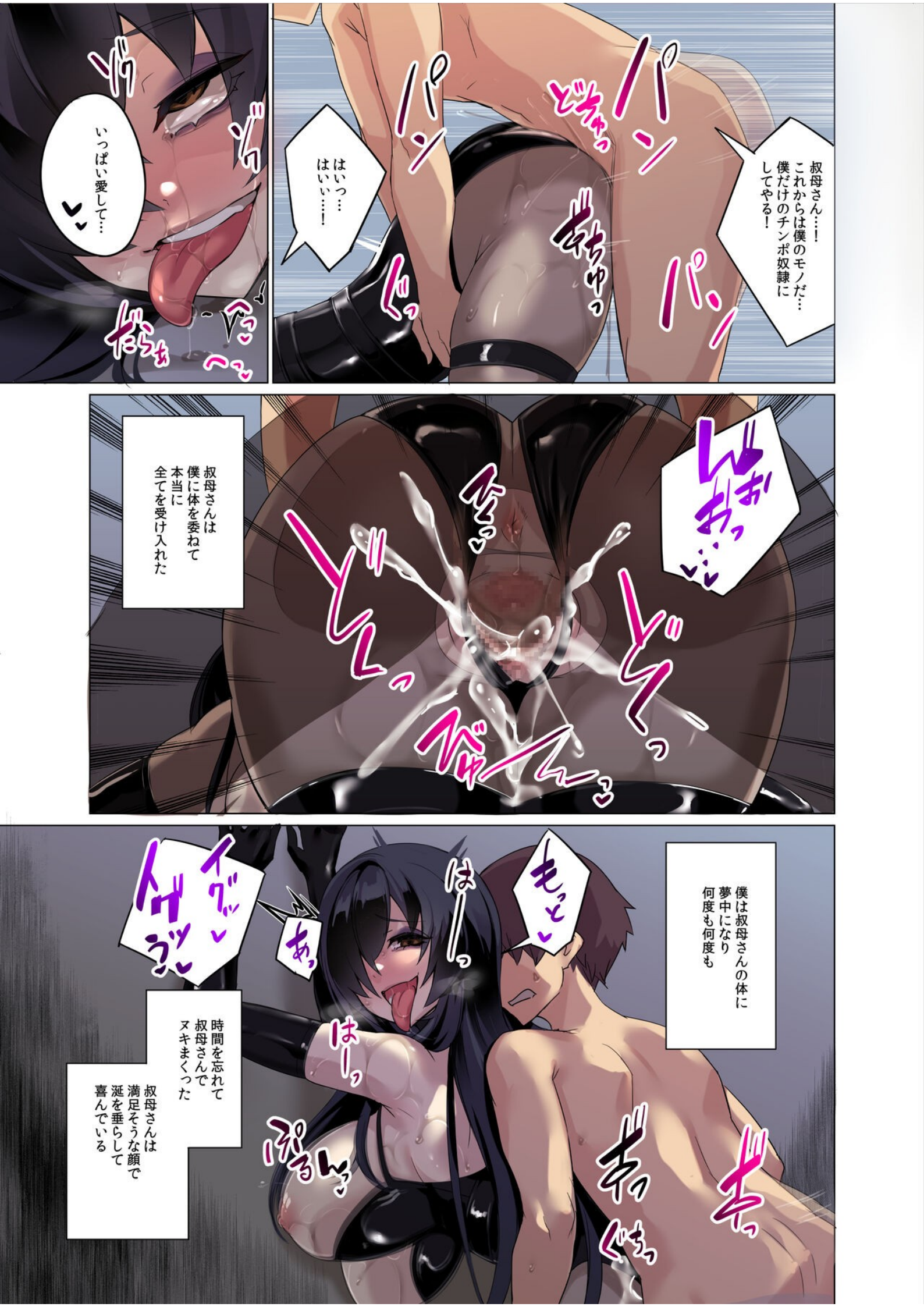
ぶるんっ

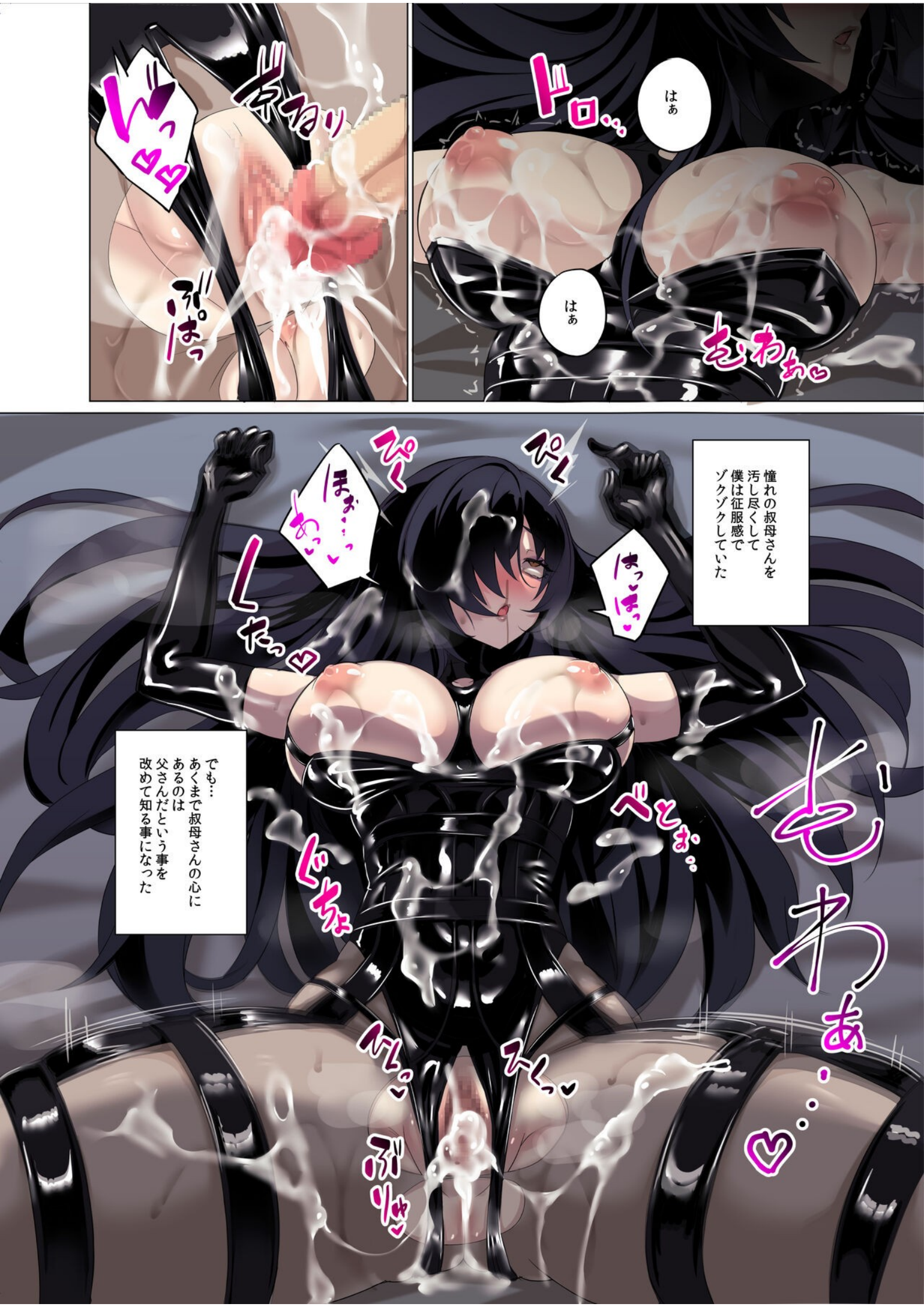
悔しくても
叔母さんとの
セックスは
最高に気持ちよかった

段々と僕も
この異様な空間に
頭のネジが外れてきた

ドクッ ドクッ

おっ…ほお


叔母さん…！これからは僕のモノだ…僕だけのチンポ奴隷にしてやる！
はいっ…はいぃ…！
いっぱい愛して…
叔母さんは僕に体を委ねて本当に全てを受け入れた
僕は叔母さんの体に夢中になり何度も何度も
時間を忘れて叔母さんでヌキまくった
叔母さんは満足そうな顔で涎を垂らして喜んでいる


はぁ
はぁ
ドロ…
もわぁ♡
ぐっ♡♡
ぱっ
憧れの叔母さんを
汚し尽くして
僕は征服感で
ゾクゾクしていた
ぷ
ぷL
ほぉ…っ
あっ
はっ♡はっ♡
したっ♡
でも…
あくまで叔母さんの心に
あるのは
父さんだという事を
改めて知る事になった
もわぁ…♡
べとぉ…
ぐちょ
ぷりゅ

それは後日
叔母さんの住む
マンションに呼ばれた日

そう　ここは…
叔母さんと父さんの
ヤリ部屋だったんだ

ガチャ

私がここでしてきた
コト…全部
書いてあるから

私の体を使って
なぁんでも
試してみて欲しいの…

本当にこんな事を…？
日記には叔母さんと
父さんの信じられない
関係が書かれていた

ドクン
ドクン…
ドクン…

20XX年4月15日

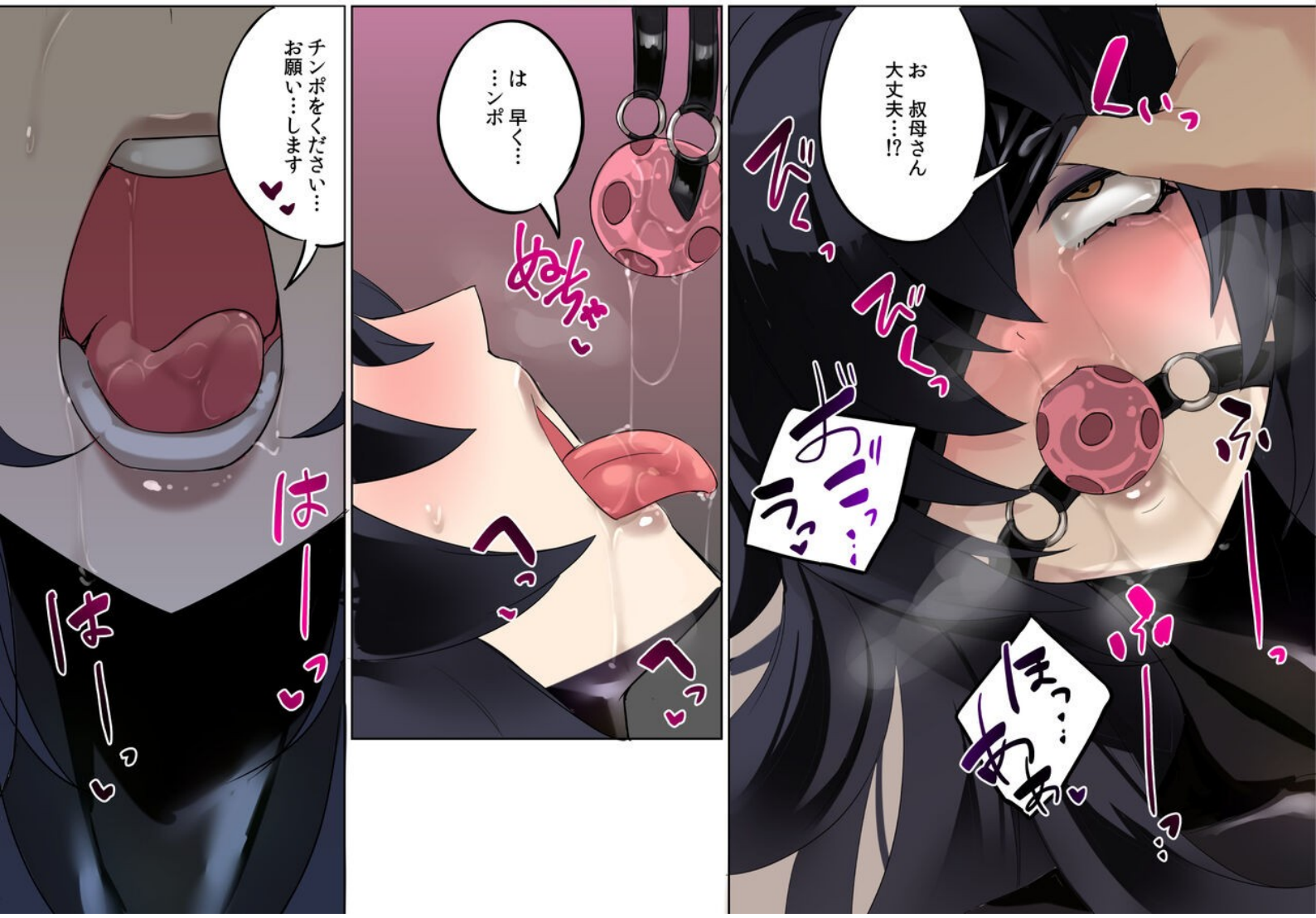
彼は私に新しい拘束衣を
着せるとバイブを装着させた。
勝手に絶頂する私を放置し
眺めていた。
目隠しで何も見えないけど
彼が私を見つめているのは
わかった。

彼の視線を感じるだけで
私は何度も簡単にイってしまった。

僕は言われるがまま
日記と同じプレイを開始し
甘イキを続けながら
悶える叔母さんを
何十分も見続けていた

聞いたことのない
絶叫にも似た
嬌声を上げ

グネグネと
スーツに包まれた体を
艶かしく動かしながら
叔母さんは絶頂した



叔母さんが欲しいのは優しさなんかじゃなく快楽だけなんだ…

そして父さんから雌奴隷として調教される日々に戻りたがってる

きたっ キポッ

じゅっ…

じゅっ…

ああ…

ああっ イイっ

あんっ

ずぽんっ

ありがとうございますぅ"ご主人様"…っ！

ぐちゅっ

ぐぽっ

ぐぽっ

こう言うのが好きなんだろ？"麗香"…！

はっ…

はい

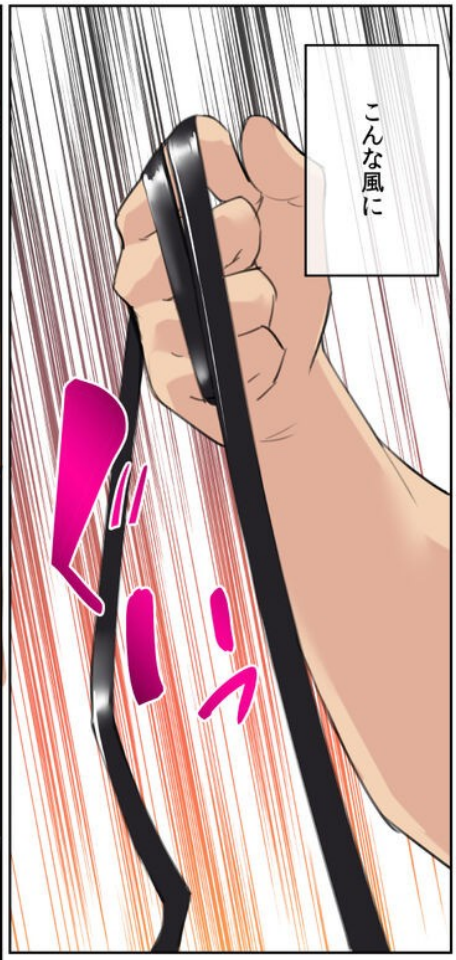
ぎゅうウウッ

そして僕は憧れだったこの女を…もっと自由に支配していいんだ

リードで繋がれて…
凛々しかった麗香が
まるで犬みたいだね

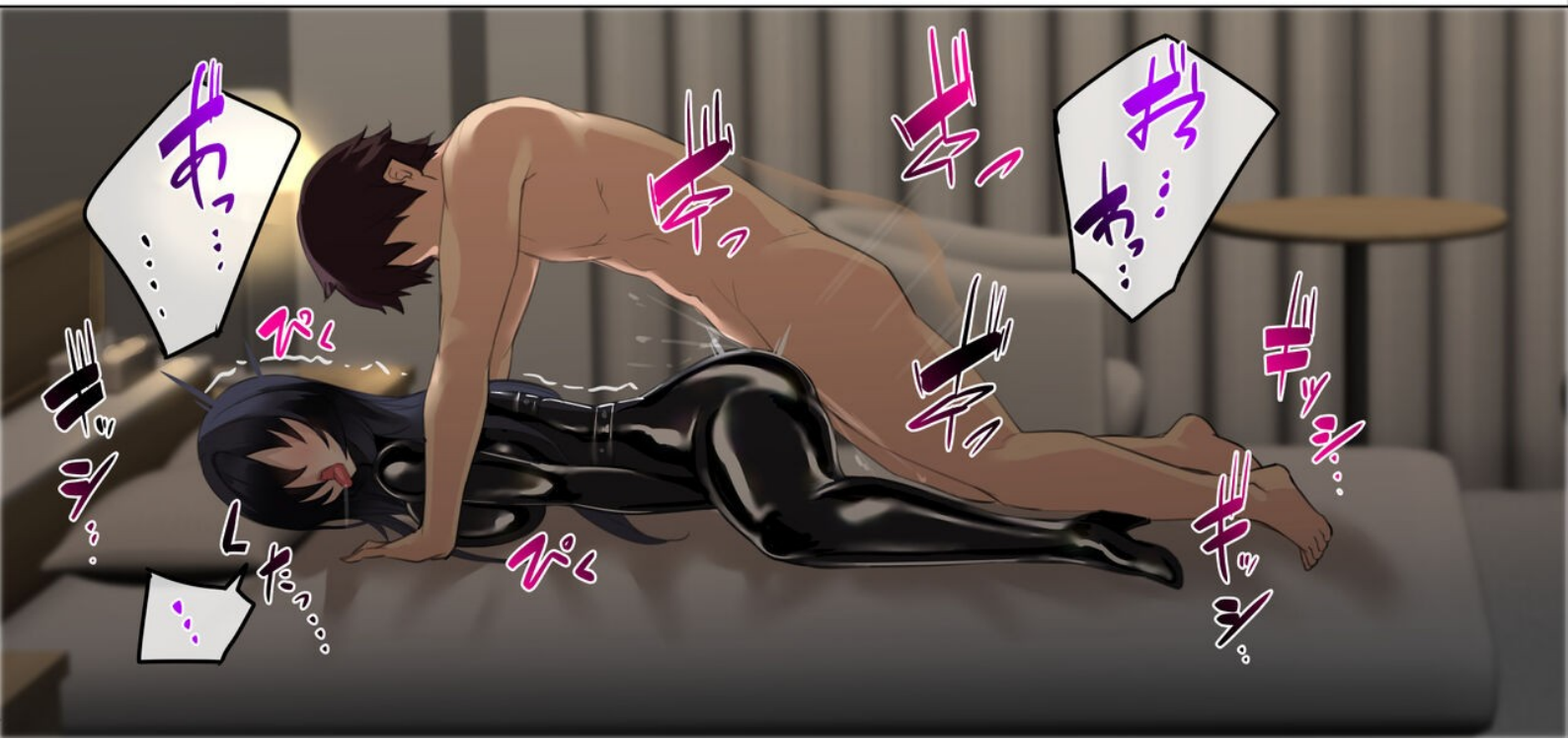
こんなチンポに
吸い付くように
自分でマンコ押し付けて…

そして麗香は
物みたいに扱われると
喜んだ



もはや嬌声しか
あげなくなった
麗香を好き勝手に
犯しまくった

何よりこの気持ち良すぎる
雌犬叔母マンコに腰が
止まらなかった



おっ
一晩中麗香を
犯し尽くし
部屋中に精液の香りが
充満していた
ぶしゅっ
ぶしゅっ
ぶしゅっ

2-B
それは学校でも…
田中くんちゃんと授業に集中する！
今日は前回までの範囲で小テストをします
すました顔でいつものように授業をする叔母さんだけど
数学II
ファサ
は はいっ
ドキッ
遠隔ローターを装着されている
ぶるぶる…
ちょっと遊ぶか
HIGH
LOW
スーッ
！
ぐらっ

感じてる感じてる…
教壇に立ちながら
どんな気分なんだろ

学校でも
叔母さんを
支配できるんだ…

ゾクゾクゾク

んっ

ぷくぷくぷく

で…では
開始してください

ブイイイイ

ははっ

クスクス

そんなに
物欲しそうな
目で僕を見て…

トロン

次の昼休みに
いっぱいご褒美を
あげるよ

ガクガク

ブイイイイイン

キュウウン

トロ…

ムワァ

昼休みの密会は
昼食も取らず
トイレで行われた

ほら麗香
抜いて全部
見せて

はい…

職場でこんな
マンコ濡らして
ほんとスケベだね

いっぱい
ご主人様から
ご褒美が頂けると
思ったら…

これでもご褒美か？

ありがとう…ございま…すぅ！

どんな扱いをしても叔母さんは全てを受け入れ

悦びの声をあげた

力入れれば入れるほどまんこ閉まるってマゾすぎるでしょ

あー　マンコの中めっちゃ吸い付く……！

学校でこんなびちゃびちゃとマン汁垂らして…
麗香はマゾ教師で淫乱だから…
こんな格好で授業できるんだもんな

叔母さんは
今までにないほど
体をビクつかせ
勝手にイキまくっていた
これが父さんが
仕込んだ肉体…
精液を欲して
異常な程
膣内が蠢いた
うぐ…あ
全部吸われる…！
叔母さんは
なんでも
どんなプレイでも
受け入れる

男が悦ぶように躾けられた
いつでも好きな時に"使える"極上肉便器
ぴくっ
ぴくっ
はー…
はー…
くちゅっ…
ムクッ…
せーしいっぱい…
すぐに…お掃除しますね…
すごい…まだこおんなにガチガチ…
うっ…く
ドキ
ドキ
ビキ
ドロ
ドロ
ぶーっ

麗香…そんなに吸い付いたら勃起治らないって…！

らって…大好きなおちんぽ美味しくて…っ♥

ぱらっ

ぼたっ

ぼたっ

ぼたっ

昼休みもう終わりそうなんだけど…

でもぉ…ご主人様はまだシたいですよね

それに私　丁度次の授業は受け持ちないし…

ぐぽぐぽ

ぐぽぐぽ

じゅぷ。

ぐぽ♥

ぐぽ♥

悪い先生だ…
率先して生徒を
サボらせるなんて

そうなの…
悪くてスケベで
おまんこウズウズ
してる

ダメ教師の
麗香を…

もおっと…
お仕置き
してください…

それからも
叔母さんと
何度も関係を持った
ある日…

"大切な用事"のために
呼び出された

詳細も聞かされず
叔母さんを
待っていると…

キッ…

今まで見たことの無い
綺麗にドレスで
着飾った叔母さんが
やってきた

ムチャ…

お待たせ
このドレス
どうかしら
似合う？

う うん…
とても綺麗だ…

本当にとても綺麗で
僕は少し圧倒されていた

ムチ

ムチ

さ…これを私に付けて

これは…首輪？

私があなたのモノである証…

随分と年季が入ってるみたいだけど…

さぁ私の首に付けて頂戴

ふふ…そうねだって

ニヤ…♡

前のご主人様の時から持っているものだから

えっ…？

なぜそんな物を叔母さんが僕に付けさせるんだ…

困惑や嫉妬の感情でドライブ中はあまり会話もできずにいると

ある高級そうなホテルへと叔母さんに連れて行かれた

…このホテルは一体…

ここは…“前のご主人様”と最後の夜を過ごした場所…

父さんと…最後に…？

ふふ…見ててください

ぷるん

キュッ

キュッ

ギュッ…

叔母さんは父さんと過ごした最後の夜を…再現したかったのか…？

あの日もこうしてご主人様の目線を感じながら…オチンポねだってダンスして…

ああ　ご主人様…ご主人様…ぁ！

あの日の事を思い出すだけで濡れてきてしまいます…！

やっぱり僕との関係は未練から…

でも…

私は今日新しいご主人様…あなたの息子に身も心もこの場所で完全に染められる…

ご主人様…一晩中…めちゃくちゃに犯して…

いーっぱい種付…してくださいませんか？

僕はまだ叔母さんの事を理解できていなかったんだ

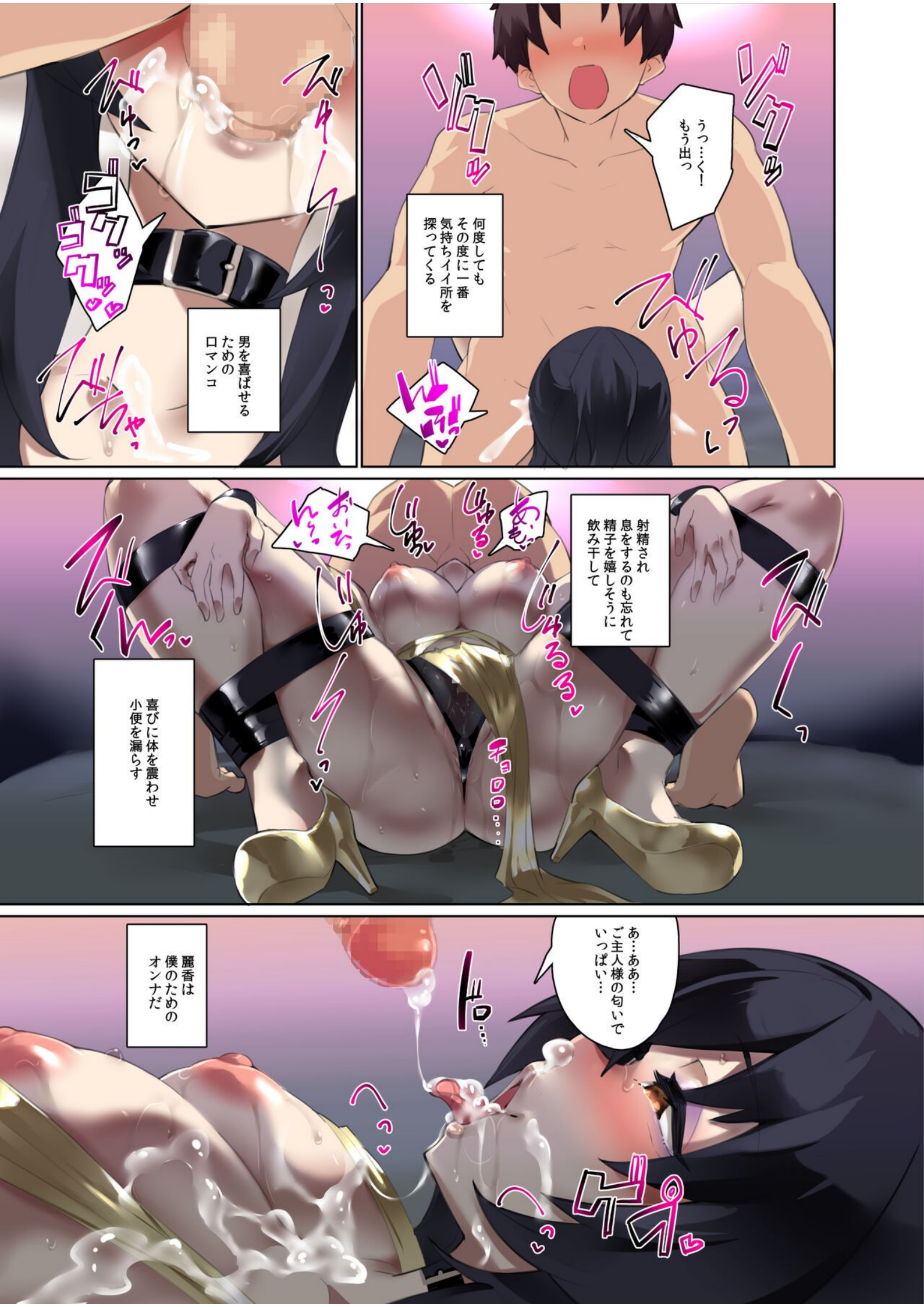
父さんの代わりだとか僕の勝手な妄想だ…

こうして"主人"のチンポを動けない体で必死に舌を伸ばして求めている

だから僕も欲望のままにただ犯す

ほらっしっかり味わえ！

ははっ本当に舐め回して味わってるのか？


うっ…く！もう出っ
何度してもその度に一番気持ちイイ所を探ってくる
男を喜ばせるための口マンコ
射精され息をするのも忘れて精子を嬉しそうに飲み干して
喜びに体を震わせ小便を漏らす
チョロロ…
あ…ああ…ご主人様の匂いでいっぱい…
麗香は僕のためのオンナだ

パンパンパン
おっ
ずっ
あっ
あ
した…っ
意識も朦朧とし反射のように突かれる度に喘ぎ続けた
膣内だけが精子を欲して自己主張してくる
ドクドクドクドクドクドク
ギュウッ
ギュッ
だらりと吊されされるがまま全てを受け入れる麗香は
今夜完全に父さんの手を離れ僕の"モノ"になった麗香叔母さん…
僕の支配欲が一気に満たされていく…
ああぁ…ご主人様…えへへ…トコ
ジュクッ
ジュクッ
もみっ
ぷりっ
ぎゅーっ

この腋から漂うムンムンとした雌臭
男を誘惑するためだけのムチムチとした下品なケツも
チンポを咥え込んで離そうとしない淫乱マンコも
全て
僕のものだ
さあ　仕上げだ

ギュッ…ギチギチ…
見て　麗香
とっても綺麗だ
ぴくっ
ビンビン
はーっ
はーっ
ギチ…
こんなに…たくさん
ご主人様に
愛してもら…って…
ぐっ
ギシ…
ギシ…
もわ…
ぱっ
ぷく…
ぷく
…幸せです